

## 保育者の実践的指導力育成・向上に関する研究 (3)

— 「食事」の場面で —

横井 志保\* 岩田 幸子\*\* 渡辺 桜\*\*\* 村岡 眞澄

## はじめに

保育者は経験を積むと、子どもの行動を見るのに、どんなところを重点的に見るとよいかという押さえどころ（ピンポイント）が直観的にわかり、構造的に問題を捉えられるようになるといわれている。<sup>1)</sup>しかし、保育の現場では、養成校を卒業したばかりの新人も、一人前の保育者として子どもの前に立ち、日々の様々な保育の課題に応えなければならない。悩み試行錯誤しながらそのうち自然と保育ができるようになるとか、保育というのは職人的な仕事に近く、実際にやってみて体で覚えるしかないなどといわれながらも、悩んでいる新・初任の保育者も少なくないし、経験を積んでも実践力の向上が十分でない保育者もいて、保育実践力を向上させる方法の理論化が待たれるところである。こうした状況をふまえて、近年様々な視点や問題意識から保育実践力向上に向けての研究が行われるようになってきているが、<sup>1) 11)</sup> 今後さらに蓄積される必要があると考える。

本研究はこうした認識を基底にして行われるものである。とくに乳幼児といった年齢の低い子どもを対象として行われる保育では、保育者の「身体性」の持つ意味は重要であることから主に、「身体」に関わる視点からこの課題を追究することが本研究の目的である。保育者の「身体性」についてはすでに先行研究があるが、<sup>2) 7)</sup> 筆者らは、保育者の実践的指導力向上の手立てを、保育観察をし、保育の具体的な場面の分析を通して探ることいわば熟練した保育者の保育から学ぶという方法を用いて研究を進めている。これまでの研究の結果、熟練者に共通してみられたことは「ゆるやかでゆったりとした中の素早さ」「どっしりと落ち着いていながら軽快」といったような、身体の動きや所作の特徴であった。こうした特徴は、保育観や、子どもを受容することと毅然とした態度をとることとのバランスのよさ、適度な距離感を保ちつつ動くといったような保育における見通しの確立等々、心身の全体に関わる要因と密接に関連して現れることが示唆された。<sup>4) 5)</sup>

今回は園での食事指導の場面を取り上げて考察したい。子どもの食事や園での食事指導については、食事が子どもにとってもつ意味を根本的に問い直したり<sup>6)</sup>、幼児の食生活や食習慣に関する研究<sup>3) 8)</sup>や食事場面における事例研究など<sup>9) 10)</sup>が行われておりそれぞれ重要な知見が示されている。しかし、園での保育者の食事指導の実際や先に述べたような目的で具体的な食事指導の場面を分析したものは少ない。これまでの研究で明らかにされた熟練者の「ゆったりとした構え」や「スムーズな流れ」は、食事場面においても同様であることが推測され、それがどのような保育の展開として具体化されているかを探り、新・初任保育者の食事場面での指導力向上のための手立てを探る一資料としたい。

\* 一宮女子短期大学

\*\* 沓掛保育所 臨時職員

\*\*\* 愛知教育大学 非常勤講師

## 研究方法

### 1. 保育観察

筆者ら4名は、1人または2人組で保育の観察を行った。

(1)観察期間：2004年6月～2005年1月

(2)観察対象：愛知県K市立D幼稚園・I保育園、K市立O幼稚園、M町立W保育園、A大学附属幼稚園、計5園の3～5歳児クラス担当保育者9名。

(3)観察場面：食事場面を中心とした、遊びから食事の終了まで。

(4)観察方法：9名それぞれの保育者の担当クラスにおいて、保育者と子どもとのやりとりを中心に記録。

### 2. 事例の分析

観察後、それぞれの記録を基に協議し、共通する保育者の特性を抽出。

## 結果と考察

観察記録を基に、観察者4名で話し合った結果、保育のキャリアが感じられた保育者と、十分と感じられなかった初任保育者の共通した特性が挙げられた。特性が現れている部分のいくつかの事例は、以下の通りである。事例中、特性が現れている部分を熟練者については波線で、他の保育者については点線で示した。

### 1. 食べるよう促す時

事例1 【K市立O幼稚園】年少9月 保育経験15年目 保育者A

給食を食べ始めて約25分経過。他児のほとんどは食べ終わり、片付け始めている。おかずの味噌汁をいらなさそうにしている女兒に、「あ！あと味噌汁だけじゃん」と、言うと、保育者は食器の中の具を食べ易いように一箇所にとめた。すると、女兒は自分で食べ始めた。保育者はさらに、「何が好きかなあ。にんじんちゃん？おいもちゃんかなあ？」と、言葉をかけた。

また、別の女兒に「○○ちゃんだよ。○○ちゃんだよ」（○○は聞き取れなかった）と、一口ずつ食べさせながら、「かぼちゃは？もっと赤ちゃんにしようかなあ」と、ほんの小さな、舐めるほどの大きさに箸で切り分け食べさせた。

事例2 【K市立I保育園】年長1月 保育経験23年目 保育者B

保育者はおかずの煮物が好きではないと言ってなかなか食が進まない女兒のテーブルの前にしゃがんで見る。「好きなもの食べて。自分で決めてごらん」と、言うが女兒は隣の女兒が他児と話しているのを気にして見ていた。保育者が「さあ、Mちゃん、食べちゃお。にんじんとちくわは食べられるよね」と、言葉をかけると、Mは前を向いて食べ始めた。

また、みかんだけが残っている男児に「さあ、J君、みかん食べちゃって～」と、軽く言葉をかけるとそれまで他児が食べるのをボーっと見ていたり、話に夢中になっていたJは食べ始めた。

事例3 【K市立D幼稚園】年少6月 保育経験3年目 保育者C

おにぎりを食べている男児に「〇〇ちゃん、おにぎり、のりだけ食べると食べれんよ」と言葉がけ、また別の男児が「あと、こんだけ〜」と、弁当箱を見せると「頑張れ!」と、力強く言葉がけた。

事例4 【A大学附属幼稚園】年中9月 保育経験5年目 保育者D

保育者がおにぎりを食べていない男児に向かって「おにぎり食べないと体が…」と言うが、首を振っていないと示す。さらに「お茶ばかり飲んで…」と言うが食べない。他児が「ほれ、先生見ろー!」と、空になった弁当箱をうれしそうに見せると「わー素敵なお弁当箱になったね」と言った。その後、食べなかった男児のおにぎりを箸で少しづつ口に運んでやる。全部食べた男児に「大きい〜こんな大きい食べちゃった」と褒めた。また、別の男児が空になった弁当箱を保育者に見せに来ると「わーピカピカになったね」と、頭をなでた。男児はうれしそうにはにかんで笑った。保育者は「お弁当ピカピカになった人、持ってきて見せてね」と、部屋中に聞こえる大きな声で言った。

一般的に保育者は、好き嫌いせずに何でも食べて欲しいと考え、偏食しない、または、させないような指導をするであろう。しかし、熟練者A、Bは「好きなもの」を選ばせたり、子どもの好きなだけ食べさせている。反対に初任保育者C、Dは少しでも多く食べさせようとしたり、全部食べさせてしまおうとしている。子どもは全部食べたことを褒められると嬉しいようであるが、保育者が、他児にも聞こえるような大きな声で褒める声や、言葉がけにより、部屋は常にざわめいていて落ち着きが無い。保育者C、Dは全部食べたこと、つまり、お弁当箱がピカピカになることを褒めることが、子どもの食べようとする意欲につながると考えているように思われる。しかし、熟練者には、子どもが好きなものを食べながらも他のものも一緒に食べるという見通しがあるので、全部食べたことを強調して他児に伝えるようなことはしていない。好きなものを食べるように促し、一人ひとりに関わり認めることが、子どもが食べようとする意欲につながるという認識に基づいた対応がなされている。熟練者の一人ひとりへの柔軟な対応に対して、キャリアがあまり十分でない初任の保育者は、クラスの子ども全体に一斉にどちらかといえば画一的な指導をしようとしていることがわかる。

2. マナーについて

事例5 【K市立O幼稚園】年少9月 保育経験15年目 保育者A

配膳中に男児が「プーッ」と、口を尖らせ吹いた。保育者は「やめようね。お友達が食べるのに入っちゃうからね。やめようって言ったらやめだよ」と、穏やかな口調で言った。また、お箸が持てることを保育者に見せようと、「見て!」と、茶碗を下に置いたまま食べて見せた子に、「お茶碗持って食べようね。両方のおててで食べましょう」と、言葉をかけた。

片付けのために席を立った男児。狭くて通りにくかったため、怒って大きな声を出した。すると、その声が発せられたと同時に保育者は、「怒らないで!通らせてって言うんだよ」と、その男児の少しヒステリックな声とは反対に落ち着いた声で伝えていた。

事例6 【K市立I保育園】年長1月 保育経験23年目 保育者B

左手をそのままにし、箸を持つ右手だけで食べている子に、「お茶碗持って食べてね。お口に入っている時はおしゃべりはしないんだよ」と、穏やかに教えた。

事例7 【K市立D幼稚園】年少6月 保育経験3年目 保育者C

保育者は準備の遅い子の手伝いをしたり、お茶をつぎながら、「は～い。M組さん、できましたか～？まだお弁当かくれんぼしておいてね～。お箸も箱の中をしっかりしまっといてね～。こちら。あれ？カンカンしてるかっこ悪い子いるよ。誰かな。お箸もまだかくれんぼしてよ。は～い。じゃあ、おててはどこにするんですか？頭ですか？違うね。おひざ。お茶を入れに行くので、おててをお膝に隠しておいてください。お尻下ろしてください。ひっくり返ります。ねえ、おててがかっこ悪い子がいる～。誰だ。だ～れだ。お箸は剣じゃないよ～。」と、矢継ぎ早に忙しくなく次から次へと子どもたちの頭上から声を浴びせかけるようにしゃべり続けた。

事例8 【A大学附属幼稚園】年中9月 保育経験5年目 保育者D

遊んでいたものを片付け、席に着いた子どもたちは、ザワザワと落ち着かない様子。そこに保育者は全体に話しかける。机の置き方により、保育者に背を向けて座っている子が半数おり、振り向きながら話を聞いている。そこにかぶせかけるように「A組さーん、先生の声、聞こえますかー？」と大きな声でしゃべり始めた。

事例9 【K市立O幼稚園】年少9月 保育経験5年目 保育者E

一人ずつ「K君とYちゃんの手はお膝、は上手。次、Tちゃん、持って行くでね」と、声かけながら食事を配っている。子どもたちは大きな声でしゃべったりしている。その大きな声に負けないように「まだ牛乳飲まないでよー」と、子どもたちの声にかぶせかけるように声をかけた。

キャリアが十分でない新・初任の保育者C、D、Eは、子どもたちに食事のマナーを伝えるために大きな声を出しているが、ざわついている時に大きな声で覆いかぶせるように言っても子どもは聞こうとしていない。そして、保育者自身の行為自体がマナー違反になっている。また、準備中の指導はよく見られたが、食べ方についての援助や言葉がけは見られなかった。しかし、熟練者A、Bからは、待つ間だけでなく、食べる時のマナーについても、穏やかな声や、普段と全く変わらない口調での指導が見られた。こうして、保育者自身がマナーを守り、落ち着いて食べることが、子どもに食べるマナーを身に付けさせることにつながっていると言えよう。

## まとめ

いくつかの事例から保育者の実践的指導力向上について探ってきた。熟練者の指導からは、以下のような共通した特性が抽出された。「身体性」に関わっては、

- (1)特別ではない自然な声や話し方

(2)前の活動から準備、食事までの移行がスムーズ

(3)一人ひとりへの子どもへの細やかな援助

(4)マナーを守り自らが落ち着いて食べる

などが挙げられる。これは状況をよく把握した上での的確な行動であり、子どもたち一人ひとりに開かれ、受け止め反応する高い「レスポンス性」を示していると考えられる。

この他に直接「身体性」に関わることではないが、食事の基本的な指導のあり方の面で、

(5)食べることに興味や関心が持てるような献立の内容についての話

(6)食事のマナーについての指導

(7)食べるよう促すが量にはこだわらず無理強いしない

などが見出された。これまでの先行研究においても、保育者も保護者も食事は落ち着いた雰囲気の中、楽しく食べることを最も大切と考えていることが示されている。何が「楽しい」ことなのか、子どもの側からの「楽しさ」について今後さらに検討することが大切であるが、少なくとも空の食器やお弁当箱のピカピカばかりが強調されたのでは、全部食べることのできない子どもにとっては、いつまで経っても楽しい時間にはなり得ない。熟練者にみられるような、一人ひとりへの柔軟な対応こそが、子どもが食べようとする意欲を育て、楽しく食事することへとつながる指導の根幹となるといえよう。本研究において、熟練者の共通した指導の特性は明らかになったが、保育者の意識については調査に至っていない。今後、意識の所在と援助・指導との関係を明らかにしていきたい。

## 謝辞

この研究の趣旨をご理解くださり、保育の観察を快くお許しくださった5園の幼稚園・保育所の園長先生と9名の先生方に心より感謝いたします。

## 引用・参考文献

- 1) 秋田喜代美 保育者の専門的成長 (小田 豊, 榎沢良彦編 2002 『新しい時代の幼児教育』 有斐閣アルマ 所収 第7章)
- 2) 榎沢良彦 1997 『園生活における身体の在り方』 保育学研究 35-2 PP.38-45
- 3) 稲井玲子他 2000 「食習慣得点からみた保育園児の健康指導の在り方」 『日本保育学会第53回大会発表論文集』 PP.198-199
- 4) 岩田幸子他 2003 「保育としての身体技法の育成に関する研究-「あやす」「なだめる」技法を手がかりに-」 『愛知教育大学幼児教育研究』第11号 PP.1-8
- 5) 岩田幸子他 2004 「保育者の実践的指導力の育成・向上に関する研究(2)-「遊び」から「片付け」に移行する場面の分析から-」 『日本保育学会第57回大会発表論文集』 PP.208-209
- 6) 金澤妙子 1994 「食事の取り組みが子どもと保育者の関わりにとって持つ意味」 『金城学院大学論集』 人間科学編 Vol.19 PP.25-62
- 7) 西 洋子 2001 『保育者と身体性』 保育学研究 39-1 PP.12-19
- 8) 岡佐智子 1999 「子どもの健康と生活実態 食生活を中心に」 『日本保育学会第52回大会発表論文集』 PP.666-667
- 9) 佐々木聡子他 1999 「集団保育における幼児食 その2 2~3歳児の食事」 『日本保育学会第52回大会発表論文集』 PP.290-291
- 10) 佐々木聡子他 2000 「集団保育における幼児食 その3 調理保育のあり方について」 『日本保育学会第53回大会発表論文集』 PP.200-201
- 11) 高濱裕子 2001 『保育者としての成長プロセス』 風間書房